

南足柄市立南足柄小学校

研究テーマ：Outgoing～他者と豊かに関わり、自ら学び続ける人を育てる～

1 実践の目的

学習指導要領では、児童が将来、急速に変化する社会の中で活躍できるように、学校では、様々な変化に向き合う、他者と協働して課題を解決する、様々な情報を見極める、状況の変化の中で目的を再構築する力を育成することが求められていると記されている。しかし、本校では受け身で授業に参加している児童の姿も見られるため、「Outgoing」という研究テーマを設定し、「児童が自ら発信していく姿」や「他者と協働して課題を解決する」という点に重きをおいて研究を進めている。また、サブテーマにあるように、他者と豊かに関わり自ら学び続ける姿をめざすことで、本市のめざす「夢と希望を持って、粘り強く自分の道を切り開く子ども」像に迫っていきたい。

2 実践の内容

(1) テーマ実現のための研究の柱の設定

上記の研究テーマを実現するために、2本の柱を設定した。その際、本校の育てたい児童の姿につながる教師の手立てとして設定することで、めざす児童の姿を実現するための教師の指導という視点を常に意識できるようにした。

- (1) 資質・能力の育成につながりうる学習問題を設定するための単元計画の工夫
 - (2) 児童の学びの自己調整・持続を支える振り返り活動の充実

また、指導案には指導者の考え（工夫や意図など）を示した。そうすることで、参観者

が研究の柱を意識して授業を参観することができ、授業後の協議についても研究の柱に沿って深められるようにした。

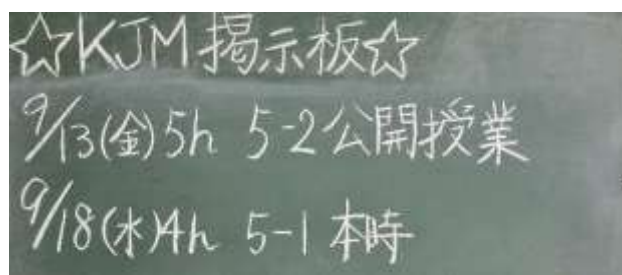
めざす子どもの姿

- ・主体的に問題をとらえ、追究しようとする姿
- ・自らの学びを振り返り、次へつなげようとする姿

研究の柱

- ・資質・能力の育成につながりうる学習問題を設定するための単元計画の工夫
- ・児童の学びの自己調整・持続を支える振り返り活動の充実

(2) 積極的な「KJM」の実践



本校では「KJM（気軽に 授業を 見合いましょう）」を合言葉に、教師がいつでも授業を参観し合えるようにしている。本校の授業のスタンダードを共有したり、放課後には、授業について話題にすることで互いの教材観を高めたりして、校内全体の授業力向上につなげたいと考えた。そこで、毎日目にする職員室内に校内研究掲示板を作

成した。この掲示板には、研究テーマや研究の柱を掲示する他に、「KJM」宣伝コーナーを設置し、積極的に授業を公開する雰囲気づくりに努め、校内の授業力向上を図っている。

（３）全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた研修会の実施

全国学力・学習状況調査や総合学力調査の結果をもとに、全職員を対象とした研修会を１学期末に行った。本校の児童の課題として特徴の見られた設問を複数取り上げ、正答するために必要な力や指導の工夫について話し合った。学習内容の系統性を考えることの重要性や、調査を児童の学力の一つの指標として指導法の工夫・改善をしていくことに大きな意味があることを全職員で共有することができた。

３ 実践の成果と課題

昨年度から、研究教科を国語科１本にして研究を進めてきた。育てたい児童の姿に直結した研究の柱を設定したことは、授業を共有する視点が具体的になるという点で深まりのある研究協議につながりやすかった。また、児童が自ら学習問題を設定できるようにするための単元計画の工夫という視点を１つ目の柱に設定することで、どんな導入をして課題づくりをしたかという事実から授業について議論することができた。

研究を進める中で、児童と教材の出合わせ方や、初発の感想から学習問題を設定するための話し合いの工夫など、単元の導入部分を大切に授業改善をしていくという意識が職員の中で広がってきている。

２つ目の柱である振り返りについては、児童の振り返りという事実を根拠に学びを評価し、授業改善につなげることができるようにしたいと考えて研究を進めている。

実際に、児童の振り返りをもとに、児童の到達度を評価し、授業改善や個別の支援に生かす実践があった。また、児童自身が自分の振り返りを次の学習に生かそうとしたり、自分の到達度を確かめたりする姿も見られた。この成果は、南足柄市学びづくり研究に関する実態調査（４月・１２月実施）においても、主体的に学習に取り組む意識が向上していたことから見てとれる。全国学力・学習状況調査でも無解答率が低く、普段から学習の振り返りをしていることで、書く力が付いていると考えられる。研究の進め方としては、昨年度までは感染症対策もあり、ビデオ視聴も行っていたが、今年度から全職員が実際に教室に行き授業を参観するようにした。また、年間１人１回は公開授業を行うようにしている。そのことは、全職員で研究テーマや柱を具体的に共有するとともに、研究をより深める上で非常に大切なことであると改めて感じている。

４ 今後の展開

本校では、児童が「友だちと学ぶことは楽しい」と感じることをめざして授業研究を行っている。同様に、教師にとっても「チームで研究することは楽しい」と感じられるような場であることが校内研究の意義であると考え、全職員にとって、校内研究が有意義な場となるように、そして、日々の授業研究の楽しさを感じるきっかけとなるような校内研究をめざし、研究の進め方を工夫して実践していきたい。児童の「わかった」「できた」「おもしろい」「楽しい」を引き出す授業をめざすこと、そしてどのような状況下でも生涯に渡って他者と豊かに関わり、自ら学び続けるような人を育てるというテーマの実現に向けて、チームでの授業づくりに努めていきたい。